

“至 誠”（新たなる歴史に向けて）

校長便り 2018 第7号

早いもので、私が四日市商業に転勤になって9か月。今日で2学期が終了となります。2週間以上の長い冬休みになりますが、健康に十分注意して楽しいクリスマス・お正月を送ってください。今回は最近あった行事からいくつかのネタを拾ってみました。

1. 2年生進路ガイダンス

12月12日には2年生の進路ガイダンスが実施されました。進学グループには多くの大学・短大・専門学校の先生方に来ていただいてそれぞれの学校の内容やその分野についての説明をしていただきました。私は最初に挨拶をしたのですが、すごい人数の先生方が集まっていて驚きました。本当に少人数で自分の希望する学校の説明が聞けたのは幸せなことだと思います。

一方、就職希望のグループは代表的な業種の企業の方々5名によるパネルディスカッションが行われました。私も一緒に聞かせていただきましたが、さすがに社会の第一線で働く企業人ばかり、本当にいい話だったと思います。よく「ホンモノ体験」と言っているのですが、実践的な話はまさに「ホンモノ体験」。ぜひとも自分のこれからの高校生活や社会人としての生活に生かしてほしいと思います。私は終了後、校長室で5名の企業の方と情報交換をしたのですが、彼らがふだんから私が「校長便り」に書いていること、体育館で話していることなどまったく同じことを話していらっしやったのは、まさに「わが意を得たり」でした。「高校生に、四商生にどのような力をつけてほしいですか」「高校時代、学生時代にどんなことをやってきてほしいですか」との質問に対する回答です。箇条書きでいくつかを紹介します。就職希望の人だけでなく、進学する人にも、1、3年生にもぜひとも読んで参考にしてほしいです。

- ・就職試験の面接で「書いてきたことを読む」生徒が多い。自分の言葉でしゃべれるようにしてほしい。
- ・高校のうちにもっと職業に関する根本的な理解を。考えるトレーニングをしてほしい。そのためにはできる限りインターンシップなど様々な体験を積んでほしい。
- ・コミュニケーション力という表現することに関心が行くが、「聞く力」をぜひともつけてきてほしい。
- ・四商は事務系志望が多いが、これからはビジネスの世界にもっと入ってきてほしい。結婚しても働く、観光業にも目を向け人生の幅を広げてほしい。
- ・最近は大卒も高卒も国語力が落ちているようだ。これは仕事をやるうえでも大きなマイナスになってしまう。しっかりと「読み書き」のトレーニングを積んでほしい。
- ・状況を説明する力、課題解決の力が絶対的に必要になってくる。発信力を鍛えるとともに自分の「仕事観」が出てくるともっと仕事や人生が楽しいものになってくる。

- ・PCのおかげで字を書くことが少なくなったせいで「字が下手な」人が多い。丁寧な字で書く練習をしてほしい。これはうまさの問題ではなく、気持ちの問題。
- ・就職と進学の間で迷い、揺れ動く生徒が多くなっている。先生方には正しい情報、進路についての情報を勉強して生徒の背中をそっと押すようなアドバイスをお願いしたい。

そのうえで、最後に言っていたのが、みなさん（四商生）の受講態度が非常に素晴らしかったとお褒めの言葉。「誰も寝ないのはもちろんのこと、相手の目を見て聞いている人が多いし、しっかりとメモを取って聞いている。我々もやっていて気持ちよく力が入ってしまいました（笑）」お世辞も込みかもしれませんが私もとても嬉しかったです。

2. 人権講演会（命を大切にす教育）

12月14日には全学年が至誠館に入って（これは至誠館ができて以来初めてのことにらしいです）、岐阜大学教授の近藤 真庸先生にお話を伺いました。その時にも話しましたが、近藤先生の話は「命を大切にす」ことだけでなく、「いじめをなくす」「SNSのリテラシー」など人権問題に関するいろいろなテーマに関して考えさせてくれるものだったと思います。ポイントになる言葉を振り返っておきますので、皆さんももう一度思い出して新たな気づきを感じてください。

- ・「人生どちらに転んでも吉」
- ・「みんな幸せ、だから幸せ」
- ・「恋にはルールがある～セクシャル・コンセント～」

実はあのあと、先生方を対象とした研修会も開催されました。その時に、私は近藤先生から以前お聞きした挨拶のスキルがとても印象に残っていて、先生方に紹介していただきました。以前、みなさんにこの「校長便り」の中で、「もっと挨拶の質を高めたい、社会人レベルの挨拶に」と書きました。講演の中でも人の話を聞くマナー、スキルとして「相手に対してへそを正面に向ける」ことを聞きましたが、挨拶についてもやってみてください。あなたを見るまわりの目が変わりますよ。

- ① すれ違う時に言葉を交わすのではなく、近づいたときに立ち止まって、②相手の右目を見てほほえむ、③言葉を交わす「こんにちは」「おはようございます」

もちろん、これまでの状況でも誰も挨拶をしない学校よりはるかに素晴らしいのですが、スキルを高めることでまた新たな世界が（特に社会に出たり、目上の人と接するときには）開けますよ。これまで自分があいさつをしているのに、相手が返してくれない、といった経験はありませんか。ひよっとするとそれはあなたの挨拶に相手が気が付いていなかったせいかもしれません。ぜひ試してみてください。

3. 「四日市まんなか祭り」と「プロボノワンデイセッション」

11月24日と25日には3年生が二つのイベントに参加してくれました。24日は諏訪公園を会場に開催された「四日市まんなか祭り」に「シティマネジメント」の生徒がスタッフとして参加。また、「イベントプロデュース」、「菰野学」、「まなびや」、「マーケティング実習」などの課題研究も販売に

駆けつけてくれました。今回、特筆したいのは前にも書いたように「シティマネジメント」では受け身型の参加ではなく、この企画を商店街の方々、市役所の方々と1年間かけて「共同プロデュース」してきたこと。若い感性による新たな企画は大いに盛り上がりを見せましたし、まさに「ホンモノ体験」になったと思います。でも、私も1日帯同させてもらいましたが、素晴らしい規格ではありますが、まだまだ改善の余地もあるように思います。2年生の皆さんにはぜひこの振り返り、反省をもとに来年はもっと素晴らしいイベントとして成長させてほしいものです。

翌日の25日は「泗商しょうかいし隊」のグループが「四日市市プロボノ・ワンディセッション」に参加し、地域や企業の大人に本校を紹介するとともに、この「ホンモノ体験」を実践してきました。「プロボノ」とは聞いたことのない言葉ですが、おもに社会人の方々が自分の仕事上・人生のなかで培った専門的スキルを使って、地域の企業やNPOなどの悩みを一緒に考えアドバイス、協働作業を行うという近未来システムで、リーダーシップ教育にもつながり、お互いを高めあう素晴らしいシステムです。みなさんにとってリーダーとは「カリスマ性を持ってみんなを引っ張っていく」というイメージだと思いますが、これからは「共通の目標を持って、率先垂範する、同僚支援」など（難しく言えば）「水平思考」のリーダーも必要になってきます。参加した3年生3人にとってもいい経験になったのではないのでしょうか。

3年生はだんだんと卒業が迫ってきますが、これ以外にも先日あった保健講話、1月に予定されている消費生活講座など「社会でよりよく生きる」キャリア教育の企画がたくさんあります。3月1日の卒業まで一つ一つを大切に日々成長していきましょう。(12月22日)